

明日にむかって

発行/社会福祉法人 陽光会 陽光保育園 編集/陽光保育園子どものしあわせを願う会
発行日/1992年12月1日 住所/東京都板橋区大谷口上町23-1 ☎(3956)1068

11号

10月の第3日曜日、恒例の運動会が開催され、みんなの期待に応じて子どもたちは素晴らしい成長ぶりを見せてくれました。とても幸せな気持ちいっぱいの秋の一日でした。
陽光の子どもたちは、お天気のよいときは街に散歩に出かけていきます。町内の公園はもちろん、川越街道や環七、旧中仙道を越えて、茂呂山公園、城北公園、東板橋動物公園へ。そして、よもぎ、のびる、むかご、しいの実、ぎんなんひろい等々、ビニール袋いっぱいにして帰ってくるのです。四季折々、「おかえり〜」「ただいま〜」の声もはずみずみ。この秋も園庭で、薪や落ち葉を焚き、大きな鍋でしいの実やぎんなんを煎って食べる子どもたち。日だまりの中、保育園での楽しいひとときです。



園舎修繕、いよいよ本番

みなさんの力強いご支援を!!

剥げてしまった屋根の塗装、ベランダの防水、床・天井等の塗り替え、老朽化した暖房設備・給食室・洗濯場の全面改修と、どれをとっても緊急な内容です。陽光保育園念願の、この大規模修繕について七月に補助金の内示を受けました。

総工費 三五、九六五、五四〇円
補助金 一八、五五九、〇〇〇円
自己負担一七、四〇六、五四〇円
となっております。社会福祉法人の私立保育園が五〇〇万円以上の修繕を実施するとき、総工費の4分の3を国・都・区が補助をする制度があります。しかし、いざ補助金制度を利用して修繕を実施すると、右のように自己負担は2分の1必要という結果になり(4分の1だと八九九一、三八五円)、私立保育園の大きな悩みのひとつになっていきます。補助金の単価が実勢とあっていないためです。『明日にむかって』の前の号の報告にあるように、隣の「公立保育園は全額公費での建て替えを一〇億円近くかけて実施している」というのに」と、ついついふくれ顔にな

つてしまいます。

待ちに待った内示です。いつまでもずねているわけにはいきません。自己資金がないからと雨漏りや老朽化した暖房設備を放っておくわけにもいきません。「どうせやらねばならぬこと、元気に明るくとりかかしましょう」と、スタートしました。

業者説明会、落札・契約と陽光保育園にとっては十年に一度あるかなにかの大事業、急ピッチで手続きをすませるにたりかかって3ヶ月。心配だった暖房工事もなんとか滑り込みセーフ、安心して冬を迎えられそうです。『明日にむかって』のこの号が皆さんのもとに届くころには給食室の改修も終わって、最後の仕上げの工事にかかっていると思います。この大規模修繕にあたっては、地域の皆さんはじめ、陽光保育園の関係者の皆さん、役所の方々等々、大勢の方に応援していただいております。心からお礼申し上げたいと思います。

工事は今年中には完了する予定ですが、工事費など自己資金の工面にはまだまだいろいろな取組が必要だと思います。今後とも皆さんの絶大なご支援をお願いいたします。

なお、一九九〇年に呼びかけ

親子でいっしょに遊ぼう

陽光保育園では、地域の乳幼児、おかあさんを対象に、月1回「親子でいっしょに遊ぼう」のもよおしを行っています。お気軽にご参加ください。無料です。

場所 陽光保育園
時間 午前9時～11時
対象 0歳児～5歳児

★参加ご希望の方は、事前にご連絡ください。

TEL 3956-1068

★1992年度 今後の予定

- 12月17日(木)
- 1月13日(水)
- 2月10日(水)
- 3月5日(金)



て、口座を開設した「ひまわり募金」は、今日まで、左記の方々から寄付金として募金が寄せられています。お礼とあわせてご報告させていただきます。(園長 星野 紀)

★ひまわり募金

ありがとうございます (順不同)

- 個人 藤田政子・磯野昇次・氏家正憲・矢島栄子・乾貴子・田村政也・筒井和美・古屋絹子・山下重男・江田一夫・近藤秀子・霜越節子・川崎哲治・佐藤宗夫・富永利志枝・根岸栄・望月和雄・長沢正美・佐藤真智子・徳永誠・中里正二・吉田右二・波方ミドリ・波方正雄・神林 里・横田和美・清水卓・菅井政代・遠藤章夫・布施あづさ・平沢静子・小宮幸子・藤沢智恵子・安藤三郎・中村圭太・高橋ミツイ・草場ツヤ子・田中良也・内海晶子・大沢美鈴・藤田早苗・宗形孝子・山本元子・賠償成美・小林幸枝・田中良雄・山田保子・山村富江・福田ミヨ・岡田英子・橋本茂・若林栄子・高橋伸志郎・橋上邦雄・石黒貞治・福山成子・霜田恵子・加藤多津子・青山信・北川泰三・茅野光広・岡本八重子・中込由美子・須藤和夫・岡田陽子・須江正子・小森由美子・団体等 無尽の会・職員理事ひまわり会・新日本婦人の会・大谷口班/スキー交流会有志
- ひまわり募金箱へ 春のつどい・バザー・ビアパーティ・運動会など
- *11月末現在総額 一、〇四二、九五〇円
- *テレフォンカードの売上げ 三五四枚

子育て1分×7

体にいい油とてますか?

脂肪酸にはマーガリン、サラダ油、に多く含まれるリノール酸系と魚油、藻類に含まれるα(アルファ)ーリノール酸系があり、この2つの脂肪酸のバランスが健康の鍵をにぎっているといわれています。現在の食生活は欧米型となり、昔よりもかなり多くリノール酸系の油や動物性の脂肪を摂りすぎていて、ガン、アレルギー、心筋梗塞、高血圧などの慢性

地域共育講座——映画と講演

うしろの正面だあれ

多数の参加、ありがとうございます

陽光保育園子どものしあわせを願う会の企画で、去る九月二十日、アニメ映画監督・有原誠治氏を招いて氏の監督作品「うしろの正面だあれ」の上映と講演会を開きました。大人と子どもをあわせ、約二三〇名の参加をいただきました。ありがとうございました。ご協力いただいたアンケートのなかからいくつかご紹介します。

■映画について

- ・心にズシンとくるものがあった。
- ・二度と戦争をしてはいけない。
- ・かよちゃんのたくましく生きていく姿に感動しました。
- ・戦争の悲惨さを改めて痛感。何かあっても戦争はNOといいたい。
- ・今回で三度目。何度見ても胸がしめつけられる。

■講演について

- ・TVのすざさ(メリット)と怖さ(デメリット)——見る側がよほどしっかりしていなければならぬことを思い知らされました。
- ・マスコミ、映像の裏話が聞けてよかった。これからは、なんとなくテレビを見ることはやめたい。
- ・時間が短かったのが残念。もっとゆっくりにいろいろなお話を聞きたかった。
- ・「うしろの正面だあれ」の裏話が楽しかった。

疾患の原因になっているといわれています。また、αーリノール酸系の油は多く摂取することにより、学習能力や記憶力もよくなるといわれています。リノール酸は体内ではつくられず、体に必要な脂肪酸ではあるけれど、できるだけ少なくして、αーリノール酸系の油が多く含まれるイワシ、サバ、アジなどの背の青い魚や小魚、シソ油を多く摂るようにしましょう。(栄養士 下田裕子)

◎ひまわり基金

左記の口座で、随時、寄付金として受け付けています。

郵便振替口座

番号 東京4-25167

名称 社会福祉法人 陽光会

名称 社会福祉法人 陽光会 陽光保育園

お申し込みは保育園事務所まで。

《行事予定》

12月5日(土) 11時～3時:古着市

6日(日) 10時～12時:食堂

喫茶、贈答品、雑貨など

忘年コンサート・チェンパロの夕べ

12月19日(土) 7時開演

チェンパロ演奏 岡田龍之介氏

会費 前売一、八〇〇円

当日二、〇〇〇円

第6回陽光新春寄席

おなじみ、柳家小はん師匠

93年1月9日(土) 6時30分開演

会費 前売一、〇〇〇円

当日一、二〇〇円

*いずれも会場 陽光保育園ホール

主催 陽光保育園後援会

●廃品回収しています

新聞、雑誌、牛乳パック、アルミ

缶を中心に回収。その収益で年一回、

人形劇などを企画。地域の子どもた

ちも招待して喜ばれています。

陽光保育園父母の会

平成5年度4月入所園児募集

問合せ 板橋区福祉事務所

詳細 11月17日(土)発行「区報」

*申し込み用紙は、陽光保育園

事務所にもあります。

運動会へ向けての取組

●竹馬(5歳児)

九月に入ると毎年、年長児が竹馬作りを始めます。竹馬は、子どもたちが最も憧れている取組のひとつです。小さいクラスのとことから年長児がやっているのを見て、年長さんになつたら竹馬に乗れるようになるという強い思いを抱いてこの時を迎えます。それだけに、竹馬の取組に入ると、みんな目を輝かせ、驚くほどの集中力をみせてくれます。

今年も竹馬さんに竹を買いにいくことから始めました。竹をきれいに拭き、足を乗せる板はお友達に押し上げてもらってシュロ縄を巻いて作り上げます。竹が二・五mもあるので室内では危ないし難しいので、毎日その長い竹馬を公園まで運んで練習します。なんとか乗れるようになるうと子どもたちは必死になります。

一歩でた、三歩あるけた、十歩できたよとあちこちからうれい声があがりはじめると、まだ歩けない子ども自分のことのように喜び、その刺激をうけて頑張ります。乗れるようになった子はまだ乗れない仲間になんばってね」と自然に声をかけます。十歩くらい歩けるようになるともうしめたもの。あつというまに百歩、二百歩と歩けるようになります。竹の一節を一段、二節目を二段と決めてあり、一段目で三百歩くらい歩けるようになると、二段目上げて練習



▲上・かもしか組(5歳児)の竹馬
下・うさぎ組(4歳児)の戸板のぼり

します。そうなので、ただ乗れることだけが目標ではなくなるのです。次には段を上げていき、高さに挑戦するといふ新たな目的ができるのです。四段、五段になると、今度は降りることのほうが難しくなり、また新しい目標が見えてきます。

竹馬は、その子にあった目標で練習できます。運動会の直前になるとクラスの半数以上が四段、五段の高さを乗れるようになります。「頭が空に届きそうだよ」と、誇らしげに乗っている姿は、ほんとうに堂々としていて光り輝いて見えます。

担任・大沢美鈴

●戸板のぼり(4歳児)

去年の運動会で「とんぼのサーカス」をやったから、うさぎ組では戸板登りをやろうかと、漠然と考えていました。実際に戸板登りをすると、うと、やはり腕の力がポイントになります。しかし、子どもたちのなかには腕の力が強い子もいれば、かなり弱い子もいます。それで、楽しく腕力を鍛えようと、交通公園に出かけたときにはコンクリートの壁をよく登って入るようになりました。

最初は、「えっ、ここを登るの?」とびくりしていた子どもたちも、うまく登れるともう一回もう一回と、何度も登りかえしていました。背の低い子は、足を届かせるのが大変ですが、手をかける所をさがし、工夫

しながら頑張つて登っています。交通公園へは壁を登つて、というのが、すっかり定着しました。

そして今年の秋、いよいよ戸板登りに取り組みました。夏の間にプールで手・足・腰にしつかりと力をつけてきた子どもたちも、ほんの二、三センチ幅の高い戸板の上に登るのは、筋肉だけでなくバランスをとる力、怖さを克服できる心、の三つが揃っていないとうまくいきません。「とんぼのサーカス」ができた人は、大丈夫、絶対できるよ」と励ますと、勇気を出して戸板にとびついていきま



▲とんぼ組(3歳児)の梯子渡り

に立って飛び越せる子が次々と出てきました。友だちが頑張っている姿を見て、怖いなあと思つている子ども板に登り、保母の手助けや友だちの声援を力に、エイッとばかりに飛び降ります。全員ができるようになってきたと思つたら、また怖さを覚えて飛べなくなつてしまふ子もいました。少しずつ少しずつ、心の中に勇気をためていくことを積みあげました。

担任・内海晶子

●梯子渡り(3歳児)

一年前の夏は、シャワーもプールも怖がついていた子どもがまだまだ沢山の山に、今年の夏には「ヨロシガンバルゾー」と意気込んで、一人がきつかけをつくらしたら、それに刺激され、もう一人、もう一人と次々

に水に潜れるようになってきました。潜つて楽しい世界を知ると、もう自信にあふれ、何をやるにもぐんと張りが出て、生き生きしてきます。その力を運動会でも見ることができました。「だれだ、オレの橋を渡るの」と子どもの喜びそうな題名をつけて、実際には斜面を立つた姿勢で登つて、あとは一・五mほどの高さの梯子を渡る競技です。斜面のぼりは普段、交通公園の大滑り台で逆のぼりをやつてのけるとんぼ組さんにはさほどむずかしいことではなく、どの子もオットットとといった調子で上まで行つてしまひます。さて、梯子渡りは……、「オットー」調子よくはいかないよ。高さもあるし、落ちたら気味の悪いトロールに食べられてしまひます。緊張、緊張、立ってたま渡る超勇者と四つ這いで渡る律儀者、いずれも怖さと闘いながら足を震わせ、チョロチョロと目を左右に動かしながら前進、前進。その間、園長(放送係)が一人一人のこれまでの育ちを書いた台本を読むと、観客もシーンと静かに耳をとき澄まし、聞きながら見入つていました。いつもゲラゲラふざけたり、泣いたり笑つたりのとんぼ組さんにとっては貴重な「緊張」でした。

もう一つは親子でやつたりリズム。お父さんお母さんの協力を得て、親子に分かれリズムを交互にやつたり、組んでやつたりしました。最後に親が木や花になり、そのまわりを子どもたちが蝶になって舞い、曲の終わりとともに「止まる」ところがとっても可愛くできました。また来年の運動会が楽しみです。

担任・原芳子

父・母・の・声 最後の運動会・初めての運動会

朝もはよからお父さんたちがやってきて、例によって例のごとく運動会の準備をやっている。杭を打ち、テントを張り、配線をつなぎ、競技に使用する道具を降ろす。準備が整ったところへ「どんぐり」「めだか」の到着。つづいて自信と期待ではちきれそうな「あひる」「とんぼ」「うさぎ」、最後に「主役は俺たちだ」といわんばかりの「かもしか」が登場すると、にわかにグラウンドが活気づく。道具係のお父さんたちも、総立ちになってスタンバイ。緊張のためか、なぜかオルガンがつかえるのは、これから始まる感動のブローグ。

遅い子、速い子、泣き虫、頑張り屋、まじめな子、ふざける子、くやしい顔、得意げな顔、とびつきの笑顔……いろいろな姿を見せてくれる。そんなのは、この運動会でも同じ? ……いいな、これは陽光保育園の運動会。みんなで作った運動会。

こんな運動会、10年も参加してきたんだもの、今日は園長のような気持ちで、あるいはみんなの父親になったような心で、思いっきり楽しませてもらおう。子どもたちの、目を見張るような成長に感涙を流させてもらおう。胸がはらけそうなる緊張の中、「あつ、音がでない!」、手作りの陽光保育園らしい運動会が始まった。私にとつて11回目の感動が始まった。最後の「と」はいわなくておこう。

中川 守(かもしか・亮の父)

早いもので、一番上の子が陽光保育園にお世話になってからももう11年もたつ。三人目の子どもも今年度で卒園である。だから、陽光保育園の運動会には私にとって今年で最後である。子どもたちの日頃のたくましさや我がに見せてくれる運動会。あの難しそうな荒馬おどりを根気よく練習し、本番でつづいて成り遂げたときには、なぞかふとどんに浮きやめだか組のころの幼い表情が目に見え、感動的でした。あつ。竹馬も、竹ざお集めから始まって、足場を組み立て、そして竹馬乗りの練習に明け暮れた日々。家に帰ってきては、今日は何歩あるけたとか、何段目まで歩けたとか、瞳をキラキラ輝かせてうれしそうに言う。その日々の成長ぶりに驚嘆したものである。運動会とその練習でつちかわれた根気強さと頑張る力は、これからぶつかる幾多の障害や困難を乗り越えていく

力になるにちがいないと信じている。佐藤久男(かもしか組・文香の父)

陽光保育園に転園し、初めての運動会。その日の朝、会場の板十小の校庭に入り、まず感心したのはお父さん方の協力ぶりでした。父母と保育園が一体となって盛り上げていくという気持ちで伝わってきました。

夏休みが終わる、運動会までの毎日のクラス日誌で、練習の状況や、子どもたちが頑張っている様子を知りました。そして当日、うさぎ組のメインの戸板のぼりが全員できて、ほんとうにかつたと思ひました。

戸板に向かっていくひたむきな姿、一生懸命走つたかけっこ、ドキドキした玉入れ、力一杯ひっぱつた綱引き……どれも子どもらしい姿に感動しました。また、かもしか組の竹馬は、高所の恐怖、バランスのとりの難しさ、バランスがくずれたときの落ち方、それらをすべて克服したの競技です。うさぎ組も一年たつとあんなことが出来るようになるのかと感動をおぼえました。

一般的に、運動会は華やかで遊戯的な傾向にあるなかで、陽光保育園の運動会は素朴な雰囲気があり、好感をもちました。

永尾登美子(うさぎ組・裕司の母)

我が子は本年四月より陽光保育園にお世話になっており、初めての運動会、イメージわくかな?と幾度か先生方からいわれましたが、本人に聞くとほとんどの種目をいえるので、これから大丈夫と当日を迎えました。さて、競技が始まると、玉入れは後ろのほうからとんでもない方向に投げた一個も入らず、かけっこはポイントポイントといった感じで走つていて、パパはイライラ。でも、「だれだ、オレの橋を渡るの!」では無事に橋を渡り終えてホッとしました。

また、陽光保育園の運動会では、親も他人事ではいらぬ。リズムでは子どもといっしょに悪戦苦闘。たまにはいいかと思つたものの、あとでビデオを見たら、赤面もの。それにしても、年長さんの走り縄とびや竹馬のバランス感覚には超ビックリでした。

もうひとつ感じたのは、先生方、父母の皆さんがスムーズだったことです。また来年が楽しみです。

田中良也(とんぼ組・良佑の父)